

# 各事業所、職場で「9条の会」を立ち上げよう！ 11・19憲法改悪阻止中央集会（明治公園）に参加しよう！

**憲法問題、私はこう考える(No.1)** 東京民医労書記局発行  
世界が本当に解決しなければならない課題について、軍事的発想で解決することは絶対にできない～今こそ憲法9条が求められている

**K.Sさん（東京勤医会労組中央執行委員長、東京民医労副委員長）**

6月に映画「ザ・インタ-プリタ-」（ニコ-ル・キッドマン主演）を観ました。憲法の映画ではないのですが、憲法を考える良い機会でした。本編上映前にコマ-シャル「ほっとけない世界の貧しさキャンペーン」がありました。ハリウッドの大スタ-達が「世界では3秒に1人の子供が死んでいく」という世界の現実を訴えるものでした。だから「ほっとけない」となるのです。経済格差がもたらす、貧困、飢餓、疫病の蔓延で毎日沢山の命が失われる現実こそ世界が早急に解決しなければならない課題です。この課題に軍事力はまったく無力です。いやピントはずれです。しかし日本ではなぜか「国際貢献イコ-ル軍事参加」という貧困かつ無益な発想で「9条を変えろ」となるのですが、戦争禁止と人命尊重の9条こそ出番の時です。非軍事の国際貢献こそ世界は求めています。憎しみ合い、殺し合いをしている時ではないのです。それを乗り越えなくてはなりません。動物の中で同じ動物同士が殺しあうのも人間だけです。他の動物にも劣る殺し合いという愚行をそろそろやめる時ではないのでしょうか。

映画は国連の同時通訳女性職員が主人公の作品です。彼女は国連を舞台にしたアフリカの独裁国家大統領暗殺計画に巻き込まれます。この国は彼女の母国。英雄として登場した大統領が独裁者に豹変。民族浄化を行い内戦状態へ。彼女の両親は戦争の犠牲となり彼女はレジスタンス運動へ参加します。そこで体験した殺し合い、憎しみ合いの毎日に深い喪失感を抱き母国を離れたのです。そして「暴力によらない争いの解決」「言葉が大切。問題解決の唯一の方法」との信念で彼女は国連に就職したのです。しかし暗殺騒動に巻き込まれる中で行方不明のレジスタンス運動に参加した兄や大昔の恋人が大統領派に惨殺された事を知り「憎しみ」が蘇り、国連に来ていたこの大統領を拉致し銃を向け、殺そうとします。自分の信念と憎しみの間で葛藤し、彼女は愛する母国の「罪を憎んで人を憎まず」という意味の諺を胸に引き金を引きませんでした。殺せば彼女の肉体も信念も死にます。「言葉」「外交」「国連の理念」を信じるという彼女の信念が憎しみを超えました。この信念はまさに9条の心なのです。憎しみを超える事こそ9条なのです。戦争をしないということは憎しみを捨て相互理解に近づく唯一いま国内では虚構の北朝鮮脅威論、自己責任論が「憎しみ」をあおり、また物事を一面的に単純化したスロ-ガンで人間を煽動しています。感情を操作し、人間としての「思考」と「言葉」を奪う。そして憲法を変えて戦争に参加しようというのです。この手法はかつてナチスが使った手法そっくりです。ナチスがなにを世界にもたらしたかは言わずもがなです。歴史を繰り返してはならない。いまこそ9条の理念を広げて「憎しみ」を乗り越え、「思考」と「言葉」を取り戻しましょう。9条の理念こそ平和と人間性回復への道と考えます。

各単組の執行委員会でも改めてこの問題を正面から議題に据え、その単組に相応しいやり方で具体化に足を踏み出していきましょう。

~~~~~

## 「RとAのつぶやき」

**R.Iさん（東京勤医会労組）**

- A「9条の会って何？なんで、今騒がれているの？」  
R「日本は終戦60年、憲法の改悪が企てられていることは知っているかな？」  
A「だから-、それと9条の会とどう関係があるの？」  
R「憲法9条は、戦争の放棄、武力は持たない。つまり『戦争はしない』と約束している」  
A「自衛隊はイラクに行っているよ」  
R「そうなのよね。本当はイラクから帰ってきて震災の復興に力を入れるべきなのに・・・。日米安保条約があるから、アメリカの言いなりなのよ」  
A「そんな変だよ、戦争に力を貸しているなんて。『戦争はしない』と言いながら基地もあるし」  
R「そうなのよね。沖縄、横田、立川にも基地があること自体、変よね」  
A「日本は、被爆国なのに戦争に加担している」  
R「よその国に対してはずかしいよね」  
A「いつも泣き寝入りするのは弱い国民、強くなれば戦争はなくなるの？」  
R「アメリカのいいなりの政治では、世の中は変わらない」  
A「政治を変えることはできないの？」

R「小泉のシナリオ通りに動いている今の政治家では、世の中は変えられない」  
A「だったら、どうしたらいいの？」  
R「だから国民は『9条の会』をあちこちにつくって戦争に反対している。弱い者いじめの戦争は、人々に『苦しみ』しか残さないから」  
A「戦争体験を風化させないために、今まで口にできなかったことを思い出して話さなきゃいけない人の気持ちは計り知れない。なんか、かわいそう」  
R「そうだよね。でも若い人たちは戦争を知らないから、今、伝えてもらわないと、またあの忌まわしい戦争が再び繰り返されるかもしれない」  
A「いろんなところで『平和のための戦争展』をやっているね」  
R「特に今年は、戦後60年だから」  
A「平和だったら、戦争がなかったら、『9条の会』もいらないのに」  
R「戦争展では、元日本軍『慰安婦』のハルモニ（韓国語でおばあさんの尊称）たちの絵画集『咲ききれなかった花』を展示している。今でも『ナヌムの家』で集団生活をしている。日本政府としての明確な謝罪、過去の被害に対する補償を求める活動を続けているそうです。長い間閉じこめられていた彼女たちの体験の絵は、心と身体の傷の癒しにもつながっているそうです」  
A「悪いことをしたら謝るのに、日本政府は謝っていない。子どもより分らず屋だね」  
R「そうね。だから中国でもブーイングされるんだよね」  
A「そうなんだ」  
R「原爆詩の朗読や、『ぞう列車がやってきた』の紙芝居や歌もあるよ」  
A「『ぞう列車がやってきた』って何？」  
R「戦争の時にたくさんの動物が殺されたが、名古屋の東山動物園では2頭の象を守り抜いた。戦争が終わった時、『本物の象が見たい』という東京の子ども議会の願いから、全国の子どもたちを名古屋へ運ぶ『ぞう列車』が走ることになった。本当にあった勇気とやさしさの物語を藤村記一郎氏が合唱構成にしたのです。全国に合唱団があり、親子さらには孫まで幅広く歌い続けられています。日本のうたごえ祭典にも、毎年参加しています。今年は11月に広島にいきます。9月11日、杉並ぞう列車合唱団では、第18回コンサートを杉並勤労福祉会館にて、出演者70名で行いました」  
A「歌で平和を訴えているのね」  
R「シンガーソングライターの横井久美子さんは、コンサートで『平和』を願って歌っています。長年のベトナム支援に対して、表彰を受けました。11月20日には、有楽町のよみうりホールでイベントがひらかれます。ベトナムは、ベトナム戦争終結30年です。米軍が大量散布した枯れ葉剤（=化学兵器）を浴びた親から、さまざまな障害をもつ子ども達が今なお50万人も生まれている」  
A「他にも、いわさきちひろさんは、青春時代を戦争の中に生き、東京の空襲を体験し、『世界中の子ども達みんなに平和としあわせ』を願い続けて、絵を描いているね」  
R「そういえば、ちひろさんの絵って、あたたかくて、かわいいね」  
A「やっぱり、アメリカは悪いことをしてきたんだ」  
R「そうだよ。そして、日本もね」  
A「えー？日本も」  
R「そうだよ。戦争は人間を狂わせるから、中国で『731部隊』と称して、人体実験をしたんだ。だから、中国のブーイングは今も続いている」  
A「同じ日本人として、はずかしいよ」  
R「沖縄の地上戦では、現地の住民を殺した」  
A「ひめゆり部隊も犠牲になって、自決したね」  
R「憲法改悪イコール戦争だから、命令されたら、医師も看護師も即戦力としてかり出される。嫌だと言ったら、非国民として逮捕されるよ」  
A「えー嫌だよ」  
R「だから、今『9条の会』なの。戦争を歯止めしないと、無惨な地獄を3度みることになる」  
A「9条の会イコール戦争反対、自分にも何かできるかな？」  
R「1人では何もできなくても、みんなが手をつなげば大きな力になる。10人がそれぞれ10人に伝えたら、100人の輪ができる」  
A「子どもを守ることは、親だけの責任ではなく、国が率先して守るべきなのに」  
R「Aも成長したね」  
A「それほどでも！」

「RとAのつぶやき」いかがでしたか？またの機会に、お会いしましょう